

あなたの声を社会へ 世界へ 組合はあなたがつくります 都教組八王子支部

都教組八王子支部ニュース No.5 2026/9/2

八王子支部ニュース

Tel: 042(623)1141 Fax: 042(627)8741

E-mail: sensei@tokyoso-hachioji.com



LINE



HP



E-mail

7.30 市教委交渉報告

7月30日、市教委交渉を行いました。市教委からは教職員課長・他職員2名、統括指導主事2名が出席しました。主な内容は次の通り。

1. 休憩時間に関する実態と回復措置について

(市教委) 年度初めの小・中それぞれの校長会・副校長会で、休憩時間を確保するよう説明をしている。重ねて組合から、実態を伝え、改善を要請。

2. 夏季休業中などのテレワーク・在宅勤務について

(市教委) 周知するよう働きかけた。テレワークの対象・報告方法などは校長の判断である。
(重ねて組合から) 学校によっては全く説明がない、全員が対象であることを伝えない、などばらばらである状況を詳しく伝え、改善を要請。

3. 「通知表ファイル」など私費負担の軽減

実態・要望を伝えた形。関係部署へ伝達とのこと。

4. 保護者対応ガイドライン・スクールロイヤーへの相談について

(市教委) 都のガイドラインは、ある段階で弁護士が直接関与することになっているが、八王子も、他の市区町村もそれができない。都が、市区町村にも支援する、としており、都と相談して検討していきたい。スクールロイヤーへの相談は管理職を通す、という点は変わらない。
(組合から重ねて) 都のガイドラインには、長時間の電話や居座りは正当な行為ではないことが明記されている。実際にはそういう行為で追い詰められるケースが多いので、都のガイドラインを市民に知らせていくだけでも、トラブルを防ぐことになる。また、管理職が教員を守る立場に立ってくれるとは限らないので、教員からスクールロイヤーへの直接の相談も検討してほしい。

その他、・不登校対応巡回教員への連絡改善や不登校対応の都の方針の周知、別室指導支援の研修など不登校対応について ・中学校部活動改革の今後について ・特例加配の新規採用者の年度途中の異動について などについて取り上げました。特に事務の共同実施については重要です。市教委から都の指示に沿って、実施について意見調査を行っただけで、実施しない選択肢もあり得る、との回答でした。しかし、アンケートの添付資料は賛成に誘導ともいえるもので、今後予断を許しません。支部として、ほかの組合とも共同で実施しないよう申し入れをします。詳しくは次号で。

支部委員会のお知らせ

- ・日 時 9月25日(金) 18時～19時半頃
- ・場 所 八王子クリエイイトホール 11階 第7会議室
- ・主な議題 人事異動について/エアコンの不具合/その他職場要求/組合員拡大について 他



原水爆禁止 2026 年世界大会に参加して

秋元優和（都教組八王子支部）

私は中学校社会科教員になり 6 年目を迎える。顧問である部活動がこの夏廃部になり、若干ゆとりができたところで都教組八王子支部の先生にお声がけいただき、大会参加の機会を得た。出発前に広島を知るため、大江健三郎の名著『ヒロシマ・ノート』を手にとった。ルポで大江が繰り返し描いていたのは、想像を絶する被爆の困難に屈伏せず、威厳をもって生きる（原爆の子の像にて 8/4）人々の姿だ。人々が抱える苦しみを反芻し確かな言葉で描き出す大江の文章を読むと、「あなたは何の覚悟があって広島を訪れるのか」と問われているように感じた。

大会 1 日目、開会総会途中、東京原水協ブースにて 2 日目の動く分科会 10『『ヒロシマの声を聞こう』 ゆらぐ核のタブー 今こそヒロシマを！』のチケットを参加費 3,500 円追加で支払い購入した。動く分科会 10-B グループは、午前中被爆の実相学習（高橋信雄さん）と被爆体験講話（山田寿美子さん）、午後は碑めぐり（本川小学校 平和記念公園）を行う。この分科会を選んだのは、何よりも被爆の実相を学ぶ必要があると考えたからだ。八王子市で採択された帝国書院の歴史教科書では、被爆について「アメリカは、戦争の早期終結とともにソ連に対して優位に立つため、原子爆弾（原爆）の投下を決定しました。8 月 6 日午前 8 時 15 分に広島へ、8 月 9 日午前 11 時 2 分に長崎へ投下された原子爆弾により、町の中心部は壊滅し～広島では約 14 万もの人々が、長崎でも 1945 年末までに 7 万を数える人々が犠牲になり～生き残った人々も、放射線の後遺症などによって苦しみました」（p.270）と説明されている。分科会では、教科書が紙幅の関係で十分言及できていない原子爆弾の恐ろしさや広島平和記念公園の碑や遺構について詳しく知ることができた。一部を紹介する。原子爆弾について、①熱線、②爆風、③放射線という 3 つの観点からその恐ろしさを説明できることを学んだ。火薬 16 キロトン分のエネルギー、爆心地周辺の地表面温度 3000～4000 度、爆心地付近の爆風秒速 440m といった具体的な数字は被爆の実相を想像する 1 つの手がかりになった。実際に平和公園を歩くことで「平和の軸線」、すなわち原爆ドームから平和の灯、死没者慰霊碑（広島平和都市記念碑）、広島平和記念資料館まで一直線に気づくことができた。原爆ドームは、日中はもちろん、夜間も確



（夜の原爆ドーム 8/5）



（8.15 平和の集いにて）

かな存在感があった。ガイドの方に教えていただいた、楮山ヒロ子さんの「あの痛々しい産業奨励館だけが、いつまでも、恐るべき原爆を世に訴えてくれるだろう」（日記の要旨）の言葉が思い出された。また、改めて深く考えさせられたのは、原爆死没者慰霊碑の石棺に刻まれた「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」の碑文である。「過ち」の歴史を生徒たちと深く掘り下げ、未来に向けて語り合う教育実践を行っていききたい気持ちを新たにしたい。

参考文献 ①『ヒロシマ・ノート』大江健三郎 1965 岩波書店

②『ヒロシマの声を聞こうー原爆の碑と遺跡が語るもの』

「原爆碑・遺跡案内」大越和郎ほか 2012 刊行委員会、（注）この冊子を片手に碑めぐりを行った。

③『社会科 中学生の歴史——日本の歩みと世界の動き』黒田日出男ほか 2025 帝国書院。